

2013 年頭所感



スルガ銀行社長兼CEO
一般財団法人 企業経営研究所理事

岡野 光喜

新しい価値の創造とリーダー

今、われわれを取り巻く世界経済は、予断を許さない欧州の債務危機問題、「財政の崖」問題に揺れるアメリカの財政状況、そして国内の構造問題が表面化している中国経済の動向など、大幅な不確実性の高まりにある。

一方、わが国に目を向けると震災後の復興、近隣諸国との外交問題、少子高齢化、円高、新興国の台頭による競争の激化など、様々な緊急かつ重要な問題に直面している。このような諸問題に対して効果的な政策を打ち出し、かつタイムリーに実行していかなければ、わが国の国際競争力は下落の一途をたどるのみならず、世界における信用力は大幅に低下するであろう。今まさに大きな岐路に立たされている。

激動と混迷を深める奔流の中で、目下直面する諸問題

への解決方法を模索することは重要であるが、全体のビジョンもなく目の前にある個別な課題への対処に留まるのみでは、たとえ解決したとしても、一時期謳歌した頃までに戻るのみで、新たな成長への階段を登ったものではない。今われわれが熱望しているのは、希望溢れる未来と、その未来を着実に実現するための道筋であり、そこには政治・経済・経営の各分野において確固たる信念を持ったリーダーシップの存在が不可欠である。必要なのは、問題の本質を的確に捉え、最適な解決策を見つけ出すのみならず、この大きな岐路に立ったわが国を先導するために、「夢」や「理想」で表される明確なビジョンを描き、組織を牽引するリーダーなのである。

経営戦略論の大家であるマイケル・ポーター氏は、

「Creating Shared Value」という概念で、社会問題の解決と自社の利益や競争力の向上を両立させ、自社と社会の双方に価値を生み出す取り組みを継続して行うことが企業を持続的に成長させる鍵であると説明している。換言すれば、経営目的の重要項目は「社会の問題の解決」であり、その目的が達成されたことによる結果として「自社の利益」が生み出されるのであると説いているのである。まさにこの発想はわが国が古来より持ち備えている「お互いさま」と「おかげさま」の発想ではないだろうか。

今、このような時代であるからこそ、われわれは今一度原点に戻り、社会全体の利益につながる新たな価値を創造していかなければならないだろう。

CONTENTS

2013 WINTER Vol.121

年頭所感	岡野 光喜
波濤	2
振りかえれば未来。徳川プロジェクト	熊倉 功夫
特集	3
ビジネスデザインの再構築	
新興国ビジネスについて	牧野 成史
ビジネスモデルは異業種に学べ	山田 英夫
滞在交流型観光戦略と阿蘇カルデラツーリズム	坂元 英俊
TOGETHER TALK	16
第63回 お客さま 久住 有生さん	
講演録	22
企業経営研究所創立30周年記念 スルガビジネススクールMBA講座 特別講演会	
経済展望	26
2013年上期の経済・金融展望 美和 卓	
インタビュー	30
中央タクシー株式会社 代表取締役会長 宇都宮 恒久	
トレンドの芽は女ゴコロにあり!	34
第16回 「お仕事体験の旅」に惹かれる女ゴコロ	石田 美穂
地域フラッシュ	36
静岡／「ふじのくに先端医療総合特区」成果現る 神奈川／発祥の地・パリに“追いつけ”	
RESEARCH EYE	38
静岡県東部地域企業経営動向調査	
TOPICS	40
2012年度 海外研修・研究等助成事業 研修報告	
編集後記	